

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームよろこびの家(栄)4階	評価実施年月日	平成21年4月1日
評価実施構成員氏名	野坂 金田 山崎 藤田 村上 吉崎 菊谷 佐々木 以上8名		
記録者氏名	野坂喜久江	記録年月日	平成21年7月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	全職員に実施したアンケートを基によるこびの家独自の理念(5ヶ条)を構築し日々、取り組んでいる。アンケートには職員主体と利用者様主体としての意見・意向を募り、それを基に作成している。		毎年、職員や入居者様にアンケートを行い、新たな理念を作成し取り組んでいきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	当ホームの理念では、自由やプライドを守る事や、ゆとりを持つ事等があり、現場ではトイレや、入浴、食事等も、常に利用者様のペースで行動して頂いたり、趣味や日課にも制限が無い為、裁縫や新聞を読んだり、テレビを見たり自由に過ごして頂いている。またトイレのお誘い等も周りに聞こえない程度の声掛けを行い自尊心を傷つけない様に配慮している。この他にも、理念には、おもいを大切にする事や、共に生きる事があり、職員や家族、物に対するおもいを否定する事をせず、家族同様に接している。		全職員が理念を把握した上でケア行って頂く為、管理者を中心に口頭では無く、実際に現場に入り職員の手本となる様に指導していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	当ホームの理念を書いた紙をエレベーター前の掲示板に貼っている。また運営推進会議でも理念をテーマとして地域の人や御家族に、説明を行っている。		運営推進会議では説明を行っているも、現状は御家族への理念の浸透は十分では無く、今後、理念を実践したケアを行う事により当ホームの理念を御家族や地域の方々に御理解して頂きたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出等には挨拶を行ったり、回覧板を回しあっている程度であり、気軽な関係とは現状、言い難く、隣近所との日常的な付き合いは見られない。		催し物等の際には、近所の方へ参加を促し、交流を図る場面(運営推進会議・介護の勉強会等)を作る事が必要である。グループホームが地域と通じた付き合いをしていくには必要不可欠であり、今後、この内容は重点的に取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	当ホームは旭町会や栄町会に所属しており、町内会の清掃活動やお祭りには積極的に参加している。その他には市内の小学校や高校から吹奏楽の演奏のお誘いや小学校から運動会のお誘い等があり利用者様と共に参加し交流を広げている。		今後も地域の住民の一員として地域活動に参加し、気軽に、お互いの催し物等で参加し合える環境を継続しグループホームが地域の中で活動をしていける環境が必須である。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	春や秋に行われる町内会のゴミ拾い等に利用者様と共に参加し地域への貢献を行っているが、当グループホームが主体的に促している活動は特に無い		町内会が行っている活動に参加し地域への貢献を行っているが、今後は当ホームが主催となって介護教室等を実施し、地域への貢献に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>事前に自己評価の意味を全職員に伝え、全職員にて自己評価を行い、自己評価完成後も皆で改善点・優良点を確認し、改善点は早急に話し合い改善し、優良点は今後も継続して行える様、スタッフ会議等へ話し合いを行なっている。また外部評価の実施についても管理者から説明を行い改善点の発見に向け活用している。</p>	<p>自己評価や外部評価で、あがった改善点は定期的な報告や会議を行う事により、ホーム全体で考え極力、早く改善に向けた案等を考えている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、当ホームで行っている活動や生活状況(食事について等)を説明している。また、介護についての講義や介護用品の説明、避難訓練の実施等、様々な活動を、御家族や地域の方と一緒に言い、その旨、御家族や地域の方の意見を聞いて今後活かしている。</p>	<p>現状、運営推進会議に参加される御家族は少数であり、御家族の遠慮があると思われる為、当ホーム内でアンケートを実施したり、運営推進会議の開催時間の見直しを行っている。また運営推進会議の内容も見直す必要があり、御家族の興味を促す内容を検討している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>現状、市町村との関わりは運営推進会議のみである。</p>	<p>今後は運営推進会議以外の場でも市町村との連携を密にサービス向上を図って行きたい。その為、会議以外での取り組みを考える必要がある。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者や職員は、権利擁護や成年後見制度についての知識が乏しい。現状では、それらの制度を必要とされる利用者様がいらない為、特に不自由は無いが、今後は、必要とされる利用者様が出てくると思われ、早急に学習する必要がある。</p>	<p>今後、必要とされる利用者様が出た場合を考慮し、早急に権利擁護や成年後見制度についての勉強会等に参加し知識を養う必要がある。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>新入職員には高齢者虐待についての感想文を書いて頂き高齢者虐待への意識を高めている。また当法人の系列で市内に3つのグループホームがあり、主に、それらの管理者が中心となり、身体拘束廃止委員会を発足しており、月一回、管理者を中心に虐待防止への知識や虐待がおきてないか、または身体拘束の事例等を、話し合い、職員間でも話し合い虐待への意識を高めている。</p>	<p>今後は介護新聞等も活用し更に虐待への意識を高めると共に虐待への勉強を行い高い知識を得た上で、もう一度、自分達の介護を見つめ直したい。また今後も新入職員には虐待の感想文を書いて頂き虐待への意識を高めて行きたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時には入居窓口担当者より十分に説明を行い理解・納得を得ている。また疑問点や不安等には、いつでも対応しており、管理者や入居窓口担当者を中心に納得の行く返答をしている。</p>	<p>管理者や入居窓口担当者は契約や解約の規律を随時、確認し、いかなる時も速やかに御家族の不安・疑問を改善できる様、努める必要がある。また日頃の付き合いも密にし、話しやすい環境を作る事も大切なので、その様な環境を作って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員や管理者を中心に、生活している中での不満、苦情を聞き、事の次第については早急に会議を行い対応している。現在までに施設の環境等についての苦情は無く、個々の意見や、希望について職員や管理者が中心となり対応している。		今後も日々の暮らしの中で、各利用者様の意見・不満・希望等を聞きサービスの質の向上や運営方針の見直しを会社内のインターネットを活用し全グループホームの職員や管理者へ情報の共有を継続して行って行きたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	当階では、昨年より年三回、家族に写真付きの手紙を郵送しており、その中で利用者様の暮らしぶりや近況を報告している。利用者様の健康状態等も家族の面会時に説明し、面会時や来られない方には最低、月一回は電話連絡を行っている。また金銭管理も同様に、自分で管理出来ない方、お金の支出については、レシートや領収書を保存し面会時や、請求書に同封し、報告している。		仕事等の都合上、どうしても当ホームへ来られない方へは連絡を密に行い、安心して頂く様、配慮する必要がある。また、写真付き手紙を郵送する事で、利用者様の日々の暮らしぶりを理解して頂いている為、今後も継続して行きたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情には随時、苦情相談担当者や管理者を中心に相談を受け付けており、対応策を話し合い改善に努めている。また年一回アンケートを実施し、居室の清掃についてや、馴染みの職員に異動等の意見が寄せられており、改善に向け努めている。		随時、意見や希望・不満等を聞いているも、口頭では話づらい内容もあると思われる為、毎年1回アンケートを行い、当ホームの改善点を明確にする必要がある。また苦情処理簿を活用し同じ苦情が出ない様、書類に記入し他のグループホームへの情報の共有を図っている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に2回に開催されるスタッフ会議や日々の業務において随時、職員の意見・提案を聞いているが、現状では、特に運営に関する職員の意見は上がっていない。		スタッフ会議や業務中に管理者から職員に意見を求めているも職員は運営に関する知識が若干乏しく、今後、運営するに当たっての知識を学ぶ事が必要である。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	催し物等では職員の人員数を手厚く(5人~6人)しており、また利用者様のご要望や状況の変化においては、その都度、勤務時間を変更できる体制を確保している。通常は3,5人(4人)で対応を行っている。		現在は行っていないが、今後は夜間の外出に対応出来る様に、勤務時間の調整を行いたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力、過度な異動は行っていない。離職等による職員の異動も必要最低限に抑え、馴染みの職員が利用者様へ支援できる様、配慮している。また新入職員へは、利用者様のコミュニケーションを作る事を第一とし、最初は必ず利用者様との信頼関係を築く事に努めている。		今後、職員と利用者様との馴染みの関係を崩さない様に利用者様の質の高い支援に向け、学習の為の一時の異動を、行う必要があると思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人職員に対しては必ず入社時に管理者によるオリエンテーションを実施している。経験の浅い職員に対して、管理者や経験豊富な職員が普段の業務を通じて料理や各利用者様の介助等を身振り手振り、教えたり、又は色々な勉強会等を通じて職員一人一人の介護技術の向上に取り組んでいる。</p>	<p>日常、様々な場面で管理者や経験豊富な職員が自ら手本となり現場に入り、他のスタッフの教育を行う必要があると思われると共に、管理者から職員へ勉強会への参加を促して行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者や運営者は勉強会・会議・社内インターネット等で地域の同業者との交流を図れる機会道南グループホーム連絡協会等ある。</p>	<p>今後、他同業者との交流、情報交換の場を設ける必要がある。その為には管理者・運営者を中心に他同業者と話し合いを行い、勉強会・親睦会を通じ、職員間での交流を行える場を設けて行きたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>不満やストレスに対し、気軽に相談できる様に、運営者・管理者は環境作りを行っている。また相談を受けた際には、その都度必ず理解・納得できるまで話し合いを行っている。また隔月一回、食事会等を通じ、介護へのストレスの発散の場を設けている。</p>	<p>管理者・運営者は今後も気軽に相談・質問が出来る様、環境作りを行う必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者を中心に職員個々の目的・目標を把握し、その実現に向け助力し、日々、向上心を持って働ける様、努めている。また諸事情により働く事の難しい時間帯がある職員へは、無理に働いて頂かぬ様、配慮し働きやすい時間帯に働いて頂いている。</p>	<p>現在は、年一回、人事考課や管理者による面談を行い、人事考課では口頭だけでなく書面で、その人の能力、実績が、わかる様にしており、自信を失う事や、今後の目標が見つかる様、アドバイスを行っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>生活するに当たって本人が困っている事・不安な事を初期の段階から利用後も常に職員間で把握する様に努め、生活の中で常時、不安・悩みを聴く機会を作っている。また本人が不安に思っている事は早急に解決出来る様、スタッフ会議やカンファレンス会議を通じて皆で検討し安心して過ごして頂ける様に努めている。</p>	<p>今後も利用者様の安心・安息に向け全職員で各利用者様の不安・悩みを把握し、統一した支援を行える様、徹底した体制を継続する必要がある。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前に御家族から不安事・心配事を必ず聴き、職員間で把握し、安心して利用できる様に配慮を行っている。利用者様本人の不安も同様、早急にスタッフ会議を行い、皆で検討を行っている。また面会時や電話連絡の際にも不安等を聴き、日々、改善に向け努めている。また昨年から年三回、家族に写真付き手紙を郵送しており利用者様の日々の暮らしを理解して頂く様努めている。</p>	<p>行事等には家族の参加を集い、交流を深めているが、気軽に相談できる環境作りとしては、各階毎に家族との親睦会や勉強会を行い、話しやすい雰囲気を作り続ける事が必要である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成において、本人・家族が必要としている支援を必ず第一のサービス内容とし、他のサービスにおいても必要な事は全てプランに載せ全職員にて統一したサービスの提供を行っている。		今後も、利用者様、御家族の要望・不安をケアプランに載せ、第一のサービスとして支援する事によって、安心して利用して頂く
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	初期プランにおいて、どのサービスよりも先行して行っている事が、他利用者・職員の交流や、場の雰囲気馴染んで頂く事であり、リロケーションダメージの軽減や、親しい友人が出来る事により安心して過ごして頂ける様、努めている。		入居の際は、必ず環境に馴染んで頂く為、初期プランに他利用者様や職員との交流のサービスを載せ、実施する事により、少しでも不安なく過ごして頂ける様、配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	管理者は、職員が、利用者様を支援する立場の一方で、利用者様を人生の先輩として尊重し、様々な人生の経験の中での知識・知恵を学ぶ事を忘れず、また一人の人間として考え、職員・利用者様の立場にこだわらず、共に過ごし共に笑い共に悲しむ気持ちを持って日々、努める様に、育成している。また当ホームの理念でもある。		調理や裁縫、洗濯等は職員が職員へ教えるだけでなく、利用者様から職員へ教えて頂ける様、職員は聞く姿勢・学ぶ姿勢を持ち、支援を行っている。また、利用者様が出来る事を、もっと探し自立に向けて支援を行っていく事も大切である。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	管理者は、御家族と行事や電話連絡の際、近況報告の為、交流を図る機会はあるも職員は、あまり機会が無く、現状では気軽な関係とは言いがたい。昨年度より写真付きの手紙を郵送しており、家族に向けて職員が近況等を考え、説明する文章を書く事で、面会時等に交流を図れる様、継続し促していきたい		職員は各御家族の要望・不安を理解し納得しているが御家族との交流は、あまり無く、今後は親睦会・勉強会を開催し職員と御家族との交流の機会を設ける必要があると思われる。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	催し物等の際は御家族に参加を集い、利用者様と御家族と一緒に過ごせる機会を作っている。また面会時も、お茶を出したら、すぐに退室し利用者様と御家族の時間を極力、裂かない様、配慮している。また、利用者様と御家族との間で、関係が良好では無い方に関しては面会時等には、職員も間に入り、穏やかな一時を過ごして頂ける様、配慮している。		遠距離の為、面会に来られない方へは、各催し物等の際に取った写真や本人が書いた手紙を郵送する事により、現在の状況や笑顔等、電話では、わからない事を今後も伝えていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や御家族の昔馴染みの関係が途切れない様、行動に制限せず、馴染みの床屋や友人の面会、昔からの趣味を行う場面が多々、見られている。また最近では、昔からの知人が尋ねて来られる様子も見られ、利用者様の生活に活気が見られる。		今後も利用者様の昔馴染みの関係、場所、趣味が継続される様、まずはフェイスシートを活用し、またスタッフ会議等を行い全職員に把握する事によって、関係が途切れない様、支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の際や茶話会の時は利用者様同士の関係を配慮した席になっており、話しやすい環境作りを行っている。また利用者様同士で、車椅子を押したり、トイレ誘導を行っている場面が見られたり、利用者様の洗濯を、他利用者様が行っている様子等が見られその際は、雰囲気や壊さぬ様、職員は見守りを行っている。		職員は仲の良い友人関係を把握し生活の中で、親しい友人を交流を図れる様、気を配っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後、他のサービスを利用される際は、必ず、その事業所等に利用者様の状況、状態を詳しく伝達を行っている。サービス利用後も、継続的な関わりを必要とされる利用者様や御家族に対しては、気軽に相談できる関係を作っており、随時、どんな相談でも受け付けている。		利用後も、介護に対する相談・助言を行い安心して過ごして頂ける様、関係を断ち切らない付き合いを行う必要がある。(利用後も当ホームの催し物へ参加を促す等)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初期から現在において常に意向や意見を聴き、全職員で把握し安心して暮らせる様、努めている。また意向や意見を聴く事が困難な方には、御家族や本人の視点に立った上での安心できる生活を実現できる様、職員で話し合い実行したり、知人や御家族に直接、意向、意見等を聴き、本人本位の生活を送って頂ける様、支援している。		利用者様からの希望・要望・想いはスタッフ会議や会社内インターネットを活用し皆が把握できる体制が作られている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期の段階で、これまでの経過や生活歴、暮らし方を聴き、フェイスシートに書き全職員に把握する様、努めている。また日常の様々な場面でも昔の事を話して頂ける状況を作り、定期のスタッフ会議にて情報の交換に努め、各利用者様が、これまで歩んできた経過等の把握に努めている。		入居の際に、計画作成担当者が利用者様のフェイスシートを作成し、生活歴や過去の職業等を、管理者が中心となり職員に把握して頂いてる。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランを元に、現在の心身状況、残存能力、一日の過ごし方を考慮したケアプランを作成し、全職員で評価し、各利用者様に適したケアプランを作成している。また暮らしの状況を記録に投入し管理者を中心に総合的な状態の把握に努めている。		一日の中で、特変等は会社内のインターネットを活用し全職員に把握できる体制が確保されている。またカンファレンス議事録や記録も、いつでも見る事ができ、皆で状態の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員は、サービス担当者会議にて御家族の意見や、利用者様の現状、身体の状態等、密に話し合い、全ての意見を配慮した上での、ケアプラン作成に当たっている。また3ヶ月毎のカンファレンス会議では職員の意見を聞き、本人に適したケアプランを作成している。		現在、3ヶ月毎にケアカンファレンス会議、モニタリングを行っておりケアプランの見直しや、プラン以外での気付いた事、問題点等を話し合い次回のケアプランに繋げている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に全職員とケアプランの評価・見直しを行っている。また急な状態変化に対しては迅速に家族に連絡し今後についての意見を求め、管理者や職員、介護支援専門員と話し合いの場を設け、その都度、状態に適したケアプランの作成を行っている。		3ヶ月毎のケアカンファレンス会議には必ず計画作成担当者も参加し、各利用者様の現状把握に努めている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、入居者様の状態や様子を見て、その場で細かく記録し必要によっては会社内のインターネットを活用し情報の共有を行っている。その他にも、各利用者様の食事量や水分量、行動等も細かく記録に投入し、記録を参考にした上でのケアを日々、意識して実践している。		各利用者様の行動、食事、排泄等、細かく記録に記載しているも現状、記録を見直し、次回のケアプランに反映されているとは言いがたい。今後は、記録も活用し各利用者様の適したケアプランを作る必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当事業所では市内に4ヶ所のグループホームがあり、入居が困難の際は同法人のグループホームの紹介をしており、利用者様・御家族の要望に応じた、様々な対応を行っている。		今後も他グループホームとの連携を密にし、迅速に御家族の要望に応えられる様、入居状況等を把握を継続して行う。現場的な意見に関しての希望・意見が聞かれた際はスタッフ会議等で皆と話し合い、極力、希望に応えられる様、検討を行い柔軟かつ迅速な対応を行う必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会を中心に、地域の学校・ボランティアの協力を得て、利用者様のご要望に応じた対応が出来る体制が作られている。また防火訓練等を通じて、消防署とは常に緊急時等には迅速に対応が出来る様、図っている。		ホームヘルパー2級の実習生や臨床福祉専門学校のボランティアの受け入れも行っているが、地域資源として協働している所は、現状、限られており、今後、協働の幅を広げる必要がある。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居の段階で他の機関を利用していた場合は極力、その機関の担当者と情報交換を行い活用している。また必要があれば随時、情報公開を行っている。		現在、利用者様の支援において特に他サービスを必要としていないが、今後、必要に応じて他のサービス機関とも協力し、満足した支援を行う必要がある。また職員は他のサービスの情報を学ぶ必要がある。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の際には包括支援センターの方への意見・意向を聴き様々な場面(ケアマネジメント・運営方針等)で参考にさせて頂いている。		運営推進会議の際には、必ず参加して頂き意見等を頂いているも、それ以外では特に繋がりはない。また包括支援センターについての知識を勉強し協働を図れる取り組みを行う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力機関である住慶クリニックを中心に、特に制限は無く、馴染みの医師や、かかりつけの医師がいる利用者様へは自由に受診・相談を行える様、配慮している。また特に馴染みの医師等がない利用者様へは、住慶クリニックを元とし健康管理に努めている。また住慶クリニックの看護師と連携し週一回、訪問して頂き健康管理の為の適切な助言を頂いている。		健康管理に関しては看護師の訪問の際に適切な助言・指示を頂いている。また必要に応じて他の医療機関(皮膚科・眼科)も看護師と相談の上、活用している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力機関である住慶クリニックの医師は認知症ケア専門士でもある為、認知症の為悩み事等は看護師を通じて随時、相談が出来る体制が確保されている。		長年、利用者様に携わっている医師は認知症ケア専門士である。また当ホーム内にも認知症ケア専門士があり、いつでも相談・助言を頂いている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在、医療連携体制が確保されており、週一回の看護師による訪問にて看護師が直接、各利用者様と関わる事により、日常の健康管理の為の適切な助言・指示を頂いている。また、医療面に関する疑問等は、社内インターネットを通じて看護師に直接、質問がいき、介護と医療の連携を密に行える体制は確保されている。		有事の際でも常に医療連携看護師との協力体制が確保されており、その都度、医療面での適切な助言、指示を頂いている。今後も継続して医療との連携体制を確保する事により利用者様が安心・安全のある暮らしを送って頂きたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は必ず入院先に利用者様の情報(好きな食べ物、排泄パターン等)を入院先に提供し入院中も安心して過ごせる様に努めている。また随時、利用者様の状況を聞き、早期退院に向け、情報交換を行なっている。		入院中も、現在の状態や退院の見込み等、常に医師と相談、話し合いを行い、早期退院に向け、情報交換を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在、医療連携体制を確保しており、看取りを希望する際には、早急に御家族・医師・看護師と担当者会議を開催し終末期に向けての今後の方向性等を十分に検討し、その旨、全職員に把握する体制が確保されている。		看取りを希望する際、必ず担当者会議を開催し、終末期に向けての方向性を担当医師、看護師、家族、職員で話し合い全員で利用者様が生涯、安心して過ごして頂く様、検討している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化・看取り指針についての同意書があり御家族に十分に説明した後、同意を得ている。重度化や終末期に向け、医師・看護師・御家族と十分、検討の上、医療措置が必要な場合は訪問看護等、他の機関を紹介し、御家族・利用者様共に安心して暮らして頂ける様、取り組みを行っている。		現在、医療連携体制による看取りを行っているも、状況、容態によっては様々な医療機関とも連携を取り、終末期に向け、不安なく生涯を過ごして頂ける様、連携を密に行う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の居宅へ移り住む際や、入居の際は必ず前の居宅・自宅の関係者に利用者様本人の情報収集を行い、住替えによるダメージを最低限に抑える様、努めている。</p>		<p>今後も入居の際だけでなく、在宅復帰等で退去される方には、今後も安心して生活を送って頂ける様、御家族や居宅のケアマネージャーへの情報提供を行う。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>全職員に入社から現在に至るまで日々、言葉使いや対応を十分に気をつける様、管理者を中心に指導し、また会議の際等の議事録にも本人の名前を書かずに居室の名称を書く等して個人情報の保護に努めている。現在も、言葉使いは新人職員や経験豊富な職員を関係なく日々、十分に注意する様、管理者が中心となって教育を行っている。</p>		<p>利用者様との信頼関係が深まるにつれ、言葉使い・対応が友達化してしまう傾向にある為、どんなに深い関係になっても利用者様を尊び、丁寧な対応を行う事を、全職員に今後も、より一層、指導が必要である。また、何気なく使っている言葉でも拘束を伺わせる事を、つい言ってしまう事がある為、利用者様との言葉のやりとりには十分に気を配る様、指導を行っている。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃から常に観察を怠らず、本人が持っている能力を最大限に活用して頂ける場面(調理・洗濯・掃除等)を作っている。また茶話会の際や着替え時等も、本人に好きな物を選んで頂き、満足して頂ける様、配慮している。</p>		<p>グループホームの目的は自立支援であり快適に過ごして頂ける事なので、現状に甘んじず、今後も更に利用者様の活躍の場を見つけ、増やす事で、残存能力の活用や認知症進行の防止にもなる為、日頃の観察を怠らない事が必須である。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>現場も含め常に利用者様主体で行動する様、管理者が職員に指導を行っている。睡眠時間や食事時間等、常に利用者様を優先し、その人のペースに合わせて職員が行動している。また、極力、団体では無く個別に対応した支援を行い、希望や意向に添った支援が行われている。</p>		<p>今後も随時、利用者様の希望・意見を聴き、極力、希望にそった支援を継続して行える様、柔軟な対応を日々、職員に指導を現在も徹底している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で選べる方には、着替え時等に、本人の満足する物を自分で選んで頂いている。また現在、出張理美容を活用しているも、好きな理髪店・馴染みの理髪店がある方には自由に行って頂いている。</p>		<p>利用者様によっては御家族と共に馴染みの美容室へ行っている方も、おられる。特に制限等をしていない為、今後も継続し馴染みの所へ行って頂く様、支援を行う。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日々の会話の中で本人の好きな物・嫌いな物を聴き、食事には十分に配慮している。また食事の際は、極力、利用者様と共に準備(盛り付け・配膳)等を行い、必ず職員と共に食事し、賑やかな雰囲気の中で食事をされている。</p>		<p>食事は日々の生活の中で欠かせない事なので、より一層、食事を楽しんで頂ける様、職員の声掛け、雰囲気作りを行う必要がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	会話の中で、好きな飲み物、食べ物を聞き、極力、一人ひとりに合わせて楽しんで頂ける様、配慮している。また食事に関しては、利用者様の嫌いな食事が出た際は、その方のみ他の食事をして頂き、満足して頂いている。		喫煙・飲酒を望む利用者様が居る際には、御家族・医師に相談の上、極力、希望に応えられる様、配慮する必要がある。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録を活用し、個別に排泄パターンを把握しトイレでの排泄や自力での排泄に向け定期的に誘導を行ったりトイレの声掛けを行っている。また、利用者様の事のみで無く、おむつ等を購入する御家族のコストの事も考え、使用量を減らし御家族のコスト削減を行うという目標も常に念頭に置き日々、排泄パターン、習慣を把握し、失敗を少なくして頂ける様、誘導を行っている。		常に利用者様のトイレでの排泄を念頭に置き、個々の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行い、その結果、オムツの使用量も少しずつ減少されている。今後も御家族のコスト削減も考慮し利用者様の排泄のケアに努めていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の時間帯に制限をしておらず、本人の好きな時に入浴して頂ける様、配慮している。現在は夕方、夜間を希望する利用者様はおられず。入浴を好まない方へは、柔軟な声掛けや気分の良い時等に声掛けを行い、極力、入浴を楽しんで頂ける様、配慮している。		日中は、好きな時間に入浴して頂いているが、朝方や夜間の入浴は現状、難しい。朝方、夜間の入浴を希望する利用者様が居る際は、他階への協力を求める等の体制を確保する必要がある。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ホール内には多くの椅子があり、またテレビの前には、ゆっくり寛げるスペースや椅子を確保している為、好きな時に休んで頂ける環境である。また、記録を活用し、睡眠状況を把握する事で、安心して睡眠が出来る様、配慮している。		ホール内や廊下には多数の椅子やソファがある為、利用者様は気兼ねなく好きな場所で休んでいる。今後は今以上に、一人一人が寛げる様環境作りを行う為に職員間で話し合いを行っていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活の中で、家事作業や、レクリエーション等、様々な場面で、本人の力を活かした役割・楽しみを見つけ、記録に記載する事で、職員間で把握し、継続的に残存能力を活かした場面を作っている。また、昔から行っている趣味・趣向も大切に、職員の方から促したり、活気ある生活を送られている。		利用者様、個人一人一人が持つ、残存能力を活かせる様、一人ひとりに合った様々な作業やレクリエーション(洗濯干し・食材切り・モップ掛け)等を行い楽しみ事や生きがい、活躍の場を見つけ提供している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る方へは、極力、本人で管理して頂いている。金銭管理の難しい方へは管理者が管理しており、特に使う際に、制限をせず、自由に使って頂いている。管理者が管理している利用者様の金銭については、必ず帳簿等に使い道、残高等を帳簿に記入し、随時、御家族に確認をして頂いている。		管理者が管理を行っている方へは、金銭管理台帳を作成しており金銭の出入りの際は、必ず台帳に記載し面会時に家族に見せ、確認を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	特に制限はしてなく、希望時には、気軽に外へ出かけている。また希望の無い方へは、定期的に外出を促し、ホーム内にこもらない様、日々、声掛けを行っている。		利用者様の希望によっては、朝方・夕方等の時間帯も考慮し、また実現に向けての勤務体制を確保する必要がある。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	特に外出に制限はしてなく、本人の好きな所へ行く支援を行っている。また旅行・長期の外泊等の際には、御家族の助力を得、極力、実行している。		前年度は年に一度、利用者様と御家族の旅行等を計画をしていたが金銭面等や時間の都合もあり実行は不可能であった為、今年度は実行可能な計画を立案する必要がある。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族や利用者様本人の希望によって、居室内に電話を設置し、自由に電話の、やり取りができる様になっている。一部利用者様はお手紙のやり取りは個人的に行っているが、他の方についてはお手紙についてはやり取りは、余り無い。		御家族あてに写真付き手紙を郵送しており、大変、好評であった為、今後も継続して行っていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居心地よく過ごして頂く為、雰囲気作りに配慮し、また面会時間も特に制限なく、場合によっては夜間の面会にも対応している。		面会に来られた際は、極力、面会者と利用者様の時間を裂く事の無い様、お茶を出したら、速やかに退室し家族の時間を大切に頂く様、配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で身体拘束廃止委員会を設立しており、全職員に身体拘束への知識や意識を高める様に、努めている。現在はベット柵を使用している利用者様はおられず、御家族へ同意を取る必要性は無いが、今後、ベット柵を必要とする利用者様がた際には、代替えで介助バーの購入やレンタルを手配する必要はあるが、極力、身体拘束を行わない様、配慮する必要がある。		当法人内で身体拘束廃止委員会にて、各部署で起きた事例等を各管理者で検討を行い、その情報を全職員に社内インターネットを使用し伝えており、意識の向上を図っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は一日中、鍵を掛けていない。玄関も日中は開放されているが、夜間は防犯の為、施錠を行っている。外出等の際は、職員や家族が同行を行っている。		居室に鍵を掛ける行為は、身体拘束でもある事を全職員が理解し利用者様本人が鍵を掛ける場合や外出する際を除き、昼夜、一切、鍵を掛けていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時、ホール内を見渡せる位置に最低職員一人はいる様、管理者を中心に指導を行っている。また、特に注意が必要な方へは、所在が把握できる位置へ極力、誘導を行ったり、自室にいる方へは、一緒に自室で過ごしたりし、安全確保に努めている。		前年度と比較し職員も業務に慣れてきている様に見えるも、依然として個々で動いている事があり、その事が事故の危険性に繋がる事がある為、今後は職員の声掛け(居室に入る時は必ず他職員に声を掛ける・最低ホールに一人、職員がいる様、職員同士声を掛け合う)等を行い、安全に過ごして頂ける様、管理者を中心に指導を行い、職員同士の連携を密にする必要がある。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や危険物は利用者様の手の届かない所へ、薬物に関しては職員が管理をしている。また刃物等を使う際には、必ず職員が見守りを行っている。自室に果物ナイフ等を持っていて、必要な時に使っている方もいるが、安全に使えるか、一度、職員で検討を行ってから使っている。		基本的に刃物・薬物は利用者様の手の届かない所で保管しているが、利用者様によっては自分で服薬の管理を行っている方や自室にて果物等を食べる際に使う刃物等を持っている方もいる。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事業所内で事故防止委員会を設立しており、全職員へ事故への知識や意識を高める様、指導している。また、緊急時や、行方不明時、火災時等の様々なマニュアルも完備されており、日頃から、管理者を中心に、マニュアルの把握に努めている。又、近年は事故防止委員会を中心に『ハインリッヒの法則』を下にインシデントを少しでも多く見つける事によって大きな事故(アクシデント)を防ぐ様、職員への意識付けに努めている。		インシデント・アクシデントが発生した際は、早急にスタッフ会議を開催し原因の解明を行っており再発防止に努めている。その他にも他のグループホームで発生したインシデント・アクシデントは社内のインターネットを通じて情報が流れており、他の事例も参考にしながら、日々、事故等の発生に気を配っている。火災については年二回、避難訓練を実施している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応の勉強会を行い、応急手当や初期対応の学習を行っている。また、マニュアルも完備されており、全職員が把握する様、指導しているが現状、全職員が把握しているとは言いがたい。		消防の方に来て頂き、緊急対応の勉強会を行ったり、緊急対応のマニュアルを作成しているも、全職員が明確に把握しているとは言いがたく、今後、スタッフ会議や勉強会を通じ、いち早く全職員は適切な対応を行える様、指導を行う必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防の協力の下、年二回、避難訓練を実施しており、災害の際には、迅速に避難できる方法を学習している。また避難訓練実施の際は、近隣の町会の方や御家族にも参加を集い、当ホームの避難の様子を理解して頂くと共に火急時には地域の方への協力を得られる様、働きかけている。		当ホームは五階建てであり、非常階段を設置しているも、避難しづらい為、全職員が災害の際には、迅速に行動できる様、定期的な勉強会・避難訓練を継続して行う事が必須である。また消防との協力体制は確保しているも、地域との協力体制は出来ていない為、協力を得られる様、働きかけを行い災害時の避難場所等を早急に検討しておく必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用前や担当者会議の際に、十分に今後、起こり得るリスクを説明し御家族に理解を頂いている。		担当者会議の際、今後、起こりうる、あらゆるリスクを介護面・医療面で家族に説明を行い家族・医療・介護で十分に話し合いを行い今後の方向性を決めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>現在、状態の異変等だけで無く社内での決まり事等も、社内のインターネットを活用しており、情報の交換はスムーズに行われている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>症状の変化については、医療連携の看護師と随時、連絡を取り、その時の状態を細かく観察し記録に残す様、指導を行っている。また以前、錠剤が床に落ちているインシデントが発生した為、現在は服薬時や口に含んだ後も、しっかり飲み込んで頂くまで見守りを行っている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>記録や排便表を通過活用して利用者様全員の排便状況を把握しており、便秘予防としては、適度の運動や乳酸菌の摂取、便秘の対策として腹部マッサージや、時には下剤を用い対応を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔内の不潔における生活の中での悪影響をスタッフ会議で説明し皆で口腔ケアを実施している。またケアプランにも記載されている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>現在、カロリー量までは把握できておらず、比較的、体重が増量傾向にある為、今後、適度な運動やカロリー軽減に向け、対応を検討する必要がある。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症に対する皆の意識や知識を高め、トイレ誘導等の際は必ず手洗い・消毒を行い全職員で気を付けて行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具等は、毎日欠かさず漂白を行って衛生に気をつけている。食材に関しては賞味期限等を必ずチェックし古い物を必ず先に使用するという基本的な事を徹底し、食中毒の予防に努めている。また調理の際は、必ず検食をとっている。		当ホームにある調理マニュアルを参考にし、食材や調理器具の衛生に努め、更に、豪華な食事を提供すると共に安全な食事を提供していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	建物の構造上、家としては、掛け離れているが、玄関にはソファーやテーブルがあり、家庭的な空間をしており、くつろいで頂ける空間になっている。また四季折々の花や置物等があり、訪れた方に威圧感を与えない工夫はしている。		今後も、訪れる方に対し、威圧感等を与えない様、日中は施錠を行わず、気軽に座って話せるソファーの設置や、四季折々の花を飾り、誰もが訪れやすい環境作りを継続して行う。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	随時、換気を行っており、利用者様に快適に過ごして頂ける様、配慮している。また当ホームは海側に面しており、特に不快な音は無く、さざ波の聞こえる落ち着いた環境であり、日当たりも良い。		落ち着いた環境ではあるも、若干、殺風景な為、今後、職員や他利用者様の手作りの作品(パズル・折り紙)等を提示し賑やかな雰囲気作りを行う必要がある。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	一人になれる空間として、各利用者様の居室があり、楽しく交流できる空間としてはホールや廊下に、数々の椅子を設置しており、好きな場所で自由に過ごせる事が出来る。		ホールやソファーにて親しい友人同士、気軽に話す場面等が見られており、楽しく過ごして頂いている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時には極力、本人の使い慣れた品物を持ってきて頂く様、御家族に促している。その事により、仏壇や昔から使用している椅子・食器等を持ってきている利用者様が多数である。また自宅へ昔、使用していた食器や衣類等を取りに行かれる利用者様もいる。		本人の使い慣れた物(食器・タンス・椅子)等を持って来て頂く事により、安心して過ごして頂いている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	トイレは毎日、欠かさず掃除し、芳香剤を置く等行い、においに気を配っている。汚物等のゴミは新聞紙に包みゴミ袋に隙間が無い様、きつく締め、早急にゴミ場へ出し、随時、窓を開け換気を行っている。また随時、温度調節を行っており、快適に過ごして頂ける温度にしている。		汚物等のゴミの出し方にはマニュアルを作成し、汚物や袋の空気を抜き、新聞紙に包んで捨てる事や、ゴミ箱に入らない物は無理に詰めない等、全員で徹底して行い臭い、ゴミの散乱に気を付けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>当ホームは居室・トイレ・ホール等、全での場所がバリアフリーになっており、また廊下、トイレ、ホール等にも手すりが設置されている。浴槽にも手すりは設置されているも、段差があり、若干、入りにくい作りになっている。</p>	<p>浴槽は建物の構造上、やむをえない為、浴槽に入る際は、必ず、見守り、介助を行い、安全を確保して安心して入浴して頂く。基本的に各利用者様の身体状況を職員が把握している為、自分で出来る事は、自分で行って頂く様、声掛けや見守りを行っている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>当ホームは比較的、わかりやすい作りになっており、各場所には、その場所の名称を記した表札が貼ってある。それでも混乱や排泄の失敗する方には随時、見守り・誘導を行い、極力、混乱・失敗の無い様、努めている。</p>	<p>各場所の名称を記載した札は貼ってあり、わかりやすい作りになっているも、少々、殺風景であり、今後は日常生活の中で利用者様や職員が作った作品(パズル・折り紙)等を提示したり、エレベータ前にある掲示板には最近の出来事等の写真を貼り、温かい雰囲気を作る必要がある。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>当ホームはベランダが無いが暖かい時は、外へ散歩され海を眺めたり、夏場は外の駐車場のスペースで焼肉等を行い、外まわりの空間を活用している。</p>	<p>外の空間に植物等を植えたいが現在は、ホーム内のホールや居室で植物を育てている。駐車場のスペースは焼肉や流しソーメンを行い、十分に活用していると思われる為、今後も継続していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>常に職員で利用者様の希望・意向を把握し実現に向けて日々、支援している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>最低一日一回は利用者様と共に、お茶をしたりして話し合いの場を設けている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>当ホームには行動に制限が無く、自由に過ごして頂いている。今後は利用者様の希望にそった支援を行う必要がある。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>今後は利用者様が生き生きと過ごして頂く為の対応を全職員で検討し実施に向けて努力する必要がある。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>外出の希望のある方は自由に外出されている。希望の無い方は職員で外出を促し外出されている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携体制により比較的、利用者様の健康面の不安は解消されたが、依然として不安を持つ利用者様もいる。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望や状況に応じて適切な対応を行っており、利用者様は安心して暮らせていると思われる。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>職員と御家族との信頼関係は薄く、親睦を深める事が今後の課題である。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>たまに地域の方や小学生が訪れ、見学等をされている。</p>

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	現在、地域を通じて少しずつ応援者が増えてきている。今後は、隣近所の方等との交流を深めていき、地域・近隣と、つながりのあるグループホームを目指していきたい
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員個々の目標の実現に向け、管理者を中心に一所懸命に努めている。意見等は、気軽に言い合える環境が必要不可欠であり、今後も、より一層、のびのびと働いて頂ける様、環境作りを行う事が大切であると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	現状では、まだまだ改善の余地がある為、利用者様はあまり満足されていないと思われる。また、利用者様が満足していると思えば、そこで成長や改善は止まってしまい、質の向上が途絶えてしまう為、この項目は評価しがたいと思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	御家族の希望には早急に応える様に、配慮しているが、今後もより一層、希望に添える様、日々、努力し御家族の、意見・要望には迅速にお答え出来る様、努めていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは近隣の2つの町内会と深くお付き合いをさせて頂いている。それぞれの町会での催し物(餅つき・お祭り)等には、入居者様と一緒に参加し、地域との交流や連携に努めている。また、法人には当ホーム以外にも3つのグループホームがあり、誘い合わせて田植えやお祭り等などの行事や勉強会を行ない協力し合いながらサービス向上を図っている。今後は、他の法人の施設ともより一層の交流を図ることで研鑽し合いながら入居者様のサービス向上に繋がるよう職員の視野を広めていきたい。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム よろこびの家 5階	評価実施年月日	平成21年4月1日
評価実施構成員氏名	高田 須藤 鮫川 谷藤 佐々木 山下 渡邊 前川 堀 加藤 以上10名		
記録者氏名	鮫川勝平	記録年月日	平成21年7月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>全職員アンケートを取り、一人ひとりの意見を参考にし、自由を守ります・プライドを守ります・ゆとりを持ちます・おもいを大切にします・分かち合い共に生きます・の理念を掲げ入居者様・ご家族・職員にとっての自由・プライド・ゆとり・おもいとは何かを共有し事業所独自の理念を作り上げサービスに繋げている。</p>	<p>理念の大切さをスタッフ会議や新規採用者のオリエンテーションで説明している為浸透はされている。今後も継続し理念に添った介護を目指している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝の朝礼時に交代で職員が理念を述べ、新規採用者のオリエンテーションの際には理念の大切さと1つ1つの意味を説明している。またスタッフルーム内やカウンターに誰でも見える所に理念を掲示し、プランや日々の介護に取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>入居者様にとっての自由・プライド・ゆとり・おもいは何かを尊重し、職員の入居者様に対するおもいや仕事に対してのおもいなど都度、スタッフ会議で話し合いをしている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念はご家族の目のつきやすい場所に掲示しご家族面会時にその都度説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、すべてのご家族、近隣の方々に向け、理念について広報誌、運営推進委員会等を通し理解して頂ける様、取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町会を通し行事の案内や招待をし、隣近所の住人と交流が持てる様に努めている。</p>	<p>○</p> <p>まだ、近隣の方の遠慮が見られるので、気軽に立ち寄って頂けるよう努めると共に、利用者様と近所の商店を利用したりと日常的な付き合いを出来るようにしたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町会の行事に参加したり、時にはお手伝いを行ったりと交流は持っており、同様に、こちらの催しにも参加して頂いたり、お互いに行き来をし付き合いを大切にしている。</p>	<p>○</p> <p>町会と交流を重ねる度に顔なじみの関係が築きながら今後も地域との交流を大切にしより良い関係を築けるよう取り組んでいきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>小学校、中学校の体験学習の受け入れを行っている。地域に貢献できるよう、地域のゴミ拾いや花植えに利用者様も参加し協力して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>近隣住人に向けての独自の取り組みは行われていない為、今後検討していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価、外部評価についてスタッフ会議や話し合いの場を設けて理解している。それぞれの評価や結果を参考にし今後に繋げている。	○	評価の意義を理解する為に結果後、職員と話し合いをしており、改善が必要であれば、原因を追求し改善を行うようにしている。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議を行っていく事で、ご家族も会議の意義を理解され、ご家族からの意見、質疑応答等をサービス向上に活かすよう努めている。	○	開催前にご家族に聞き取りを行い、開催日時の見直し等をし開催したが参加されるご家族が固定化されてる。また、全く参加されないご家族がどのようにすれば参加して頂けるか、今後も検討していきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市町村主催の勉強会に参加しているが、2ヶ月に1回の運営推進会議の参加や連絡、報告等に限られている。	○	案内状等を持参し促しているが、業務多忙の為、参加はされていないが、大きな催し開催時には市町村に連絡し参加を促し、サービス向上に努めていきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護、成年後見制度に関する知識を得られるように、勉強会や研修会に参加し理解をしているが、現在、同制度を必要としている利用者様はおられない為、活用はしていない。	○	現在、同制度を利用する利用者様はいないが、必要時に備え勉強会や研修会に体制を作っていく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	身体拘束廃止委員会があり定期的に開催している。職員は利用者様の人権、尊厳を重視し、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。職員、一人ひとり、起こさない為には、どうしたら良いかを会議、身体拘束廃止委員会で話し合いを行っている。	○	身体拘束廃止委員会のなかで、事例検討を行い、職員一人ひとりの意見を参考にしている。また、虐待に関するアンケート等を実施し、意識調査を行っている。
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約解約の時は利用者様やご家族に説明を行い、理解を得ながら行っている。十分に伝わらない際には、都度、説明し対応している。		ご家族によっては疑問や不安を相談されない方もいらっしゃるのでは、ご家族の都合がつけば、都度、対応し話す機会を設け、相談、助言が出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見・不満・苦情は、スタッフ会議や管理者会議にて原因・解決に結び付けている。その結果を議事録を作成し、対応後の情報もご家族や関係者で共有できるように努めている。	○	同建物ユニットだけでなく、当法人のグループホーム全体で情報を共有出来る様、インターネットにて全職員に議事録を送り情報提供と共有を図っている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態に変化があった時や病院受診の結果報告は面会時や電話にて行っている。職員異動の際はその都度、面会時に事前に話をしているが場合によっては事後報告になる時がある。		ご家族に合わせた連絡を行う様に心掛けている。又職員異動の際はご家族と相談の上、利用者様に伝えるかを話し合いご家族の意見を尊重している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年一回アンケートを実施し集計結果を誰でも観覧出来るように掲示しご家族の意見を重く受け止め改善に繋げている。苦情・意見があればスタッフ会議や管理者会議で原因を探り改善策を話し合っている。		苦情対応後、全グループホーム管理者会議で内容・対応までの経過報告し情報を共有し同じ苦情が起こらないように努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	専用インターネットを利用し、仕事の事や意見を聞ける機会を設けている。個々の提案をスタッフ会議や週一回開催している管理者会議でも話し合い意見や提案を反映出来るようにしている。	○	勤務が合わなくてもインターネットを使い意見を聞ける体制は出来ているが、今以上に職員の意見・提案を聞き、反映させていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況に応じられる時間帯を考慮し、勤務調整を行っている。催し事等があれば職員数を増やしたりと柔軟に対応している。		催し事の時間に合わせ勤務時間を変更したりと柔軟に対応している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動・離職の際は、事前にご家族と話し合い入居者様のダメージを最小限に防ぐ為にご家族と相談しながら伝えるように心がけている。	○	同建物内での異動は異動した職員が頻繁に顔を出し、ダメージの軽減となるが、離職の場合は出来るだけ最小限に抑えられる様に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>勉強会や研修会の参加をインターネットを使用し全職員に促している。勉強会や研修会は必要に応じ、勤務調整を行い、勤務内で参加出来る様に努めている。</p>	<p>○</p> <p>ユニット毎でも勉強会を開催し勤務時間内に誰もが参加出来る様になっている。職員の技術や知識の向上が出来るように法人外の研修会の情報を集め全職員に伝えている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>南北海道グループホーム連絡協議会に加盟しており、そのなかでの勉強会に参加しており、近隣のグループホームと交流を深めている。近隣の施設とは催し事の際等に行き来したり交流を持っている。</p>	<p>○</p> <p>昨年同様にミニバレーボール大会を開催し職員間での交流も持っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談などでストレスや重荷になっていることは無いか聞き、言葉で話せない事はインターネットを通し聞ける体勢や環境作りは整えている。</p>	<p>○</p> <p>管理者は自分のユニットの職員だけでなく他のユニットの職員の相談事を聞きアドバイスが出来る体制を確保している。建物内で解決できない事は全体管理者会議でも意見が聞け広い視野で話が出る。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年1回の人事考課や個人面談を行い、個々の職員に合わせその都度、努力や実績・勤務状況を把握できる体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>年一回の人事考課はもとより、管理者が必要に応じてアドバイスをしている。一人ひとり、個別に対応し職員が自信が持て向上心に繋がるようにしている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になり、ご本人・ご家族と初回面談を行い、ご本人の状況や生活習慣・解決すべき課題を聞き、分析し今後関わっていく職員全てが共有し不安や訴えを把握し解決出来る様に努めている。</p>	<p>入居後はスタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い、利用者様の求めている事や不安な事を職員間で共有している。又過去の生活歴や習慣などご本人が思い出せない事はご家族から聞き取り行い今後のケアに繋げている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者がご家族と話し合い現状や困っている事を聴き、その都度、対応し入居前からご家族の悩みや心配事の相談を親身に受け止めている。</p>	<p>ご家族・利用者様の思いを大切にし入居までの経緯を把握しここでの生活に不安や心配事を出来る限り取り除き、安心して暮らしていける環境作りを心掛けている。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談を受けた際には、必要とされている情報の提供をし、本人、ご家族と話し合い、ケアとプランにつなげている。状況によっては近隣の施設と連携をとり対応している。</p>		<p>ご本人、ご家族が希望されるケアをプランに入れ、作成している。その都度、見直しと検討を行い、入居者様の状況に対応している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ご本人、ご家族に見学や体験をして頂き、納得して頂いた上でサービスを開始している。入居前の事前情報を把握し、職員が共有して、他入居者様と馴染みの関係が作れるように努めている。</p>		<p>ご本人、ご家族が納得されるまで、何度でも見学をして頂き、時には他の利用者様と一緒に体験して頂いている。入居、間もない時には、入居者様同士の会話や行動に注意しながら、相性を把握し支援している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>過去の経歴を踏まえながら、利用者様とコミュニケーションを図り、普段の会話を通して料理や昔の遊びや知恵を学んでいる。</p>		<p>利用者様、各自の得意分野を活かし、どの様に関わったら良いかを話し合い、実践している。生活を通して利用者様、職員のお互いが学びながら暮らしている。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に普段の生活状況や変化を伝え情報を共有している。ご家族の要望は可能な限り取り入れ対応している。職員をご家族と一緒に利用者様を支えていく関係を築いている。</p>		<p>なかなか面会に来られない、ご家族には電話連絡にて報告や相談をしながら、利用者様が、ここでの生活が快適に過ごせるように支援している。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>職員間で情報を共有し、家族関係を把握した上で面会時に、より良い家族関係が築けるように、本人の思いなどを伝え、不安のないように支援している。</p>	○	<p>それぞれのご家族の事情に合わせた対応に努めている。入居前に生活歴や家族関係をさり気なく聴き、担当者会議で話し合いを行っている。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に制限は特に設けていない為、ご本人の友人、近隣の知人も訪問されたり時には、電話や手紙なども行っている。</p>		<p>近隣の場合は、自宅へ出掛けたり、遠方の場合は手紙や電話で対応出来るようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の性格、生活歴を把握し、一人ひとりに合わせたケアを行うことで、新しい交流が持てる様に、常に心掛けている。		歩行が安定している利用者様が、車椅子を使用されている利用者様の車椅子を押して下さったりと利用者様同士が支えあえる関係が築かれている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も関係を断ち切らない付き合いを、心掛けているが、現在はサービス終了後、継続的な関わりを必要とする利用者様がいらない為、行っていない。		サービス利用が終了しても、病状の事等、相談にのったりしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にカンファレンス会議を行い、利用者様の自立を支援しながら、希望や意向を把握し、身体状況の変化に対応出来る様にしている。		今まで暮らしていた生活や習慣を尊重して、ご本人、ご家族の希望や意向を把握し、その人らしい生活が送れる様に支援している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の会話、面談を参考にしてフェイスシートを作成している。関わる職員はいつでも情報を共有し、ここでも今までと同じ様に生活出来る様に支援している。		馴染みの暮らしに近づくように、フェイスシートをもとに、生活歴を把握し、入居後も、ご家族に話しを聞いて情報収集を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝・夕の申し送りや記録の中で、過ごし方や心身状況を伝え、一人ひとりが有する力を出せる様に努めている。		朝・夕に申し送りを行い、その日の出来事を職員間で共有している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、介護支援専門員、介護職員等と定期的に話し合いや会議を開き、それぞれのアイデアが反映するように介護計画を作成している。		3ヶ月ごとにカンファレンス、モニタリングを行い、必要事項の追加、終了など見直しをしている。職員同士の情報収集、交換を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に職員でカンファレンス会議を行い、ご本人の現在の状況に合わせたケアプランを作成している。又、ご本人、ご家族、関係者からの意見、要望を取り入れ、プランをご家族に納得して頂いた上で、署名、捺印を頂いている。		状況の変化、ご家族や本人より意見を頂き、より良い内容に変えていく。今後も介護支援専門員を中心とし、定期的にカンファレンス会議を行っていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日中、夜間の状態観察、排泄、食事量、水分量、検温、血圧測定等、個々に記録している。記録は利用者様一人ひとり、綴っており、いつでも見られるようにしている。職員間の情報の共有にも活かしている。		記録は、介護記録用の用紙に手書きで記入し、過去の記録もいつでも見られるように個人別にして残している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当グループホームは5ユニットになっており、職員の人数も多く、協力し合い、柔軟な支援を心掛けている。利用者様の希望には出来る限り、応じており、外出、買い物、受診等の支援、付き添いを行っている。		当法人は、グループホームが他に3箇所とクリニック・老健施設・包括支援センターがあり、連携が取れている為、柔軟な支援が出来る。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防隊と避難訓練を行ったり、近隣の町会やボランティアに協力して頂き、催し事を開き、参加して頂いている。又、市や町会の催し事、近隣の小学校での催し事にも参加している。	○	今後も、定期的に避難訓練を行ったり、近隣の町会、小学校、ボランティアの催し事に積極的に参加し、協力していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人、ご家族の意見や状態によって、他の事業所とも連携を持ち、より良いサービスを受けて頂ける様、心掛けている。		現在は1名がデイサービスを利用されており、訪問マッサージを受けられている方もいる。今後も他事業所と連携を保ち、他のサービスを利用できる為の支援を行っていく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと情報を共有し、連携が取れている。又、ご本人の意向や必要性に応じてケアマネジメント等も行われている。		2ヶ月に1回行っている、運営推進会議に出席して頂く他、必要に応じて連携を取っている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週に1度、医療連携の看護師による、健康管理を行っており、状態の変化等があった場合は、相談し指示を受けるようにしている。又、定期受診、緊急時の受診の支援も行っている。</p>		<p>受診する際は、職員と一緒に受診している。眼科、皮膚科、歯科の往診、受診の支援も行っている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>向仁会に、認知症の専門医があり、ご家族と相談した上で、診断や治療が受けられるように支援している。職員も積極的に研修等に参加している。</p>		<p>認知症ケア専門士の資格の取得者があり、いつでも相談、助言が行える体制である。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>当事業所には看護職員は確保していないが、医療連携の看護師と情報交換を行い、入院先でも安心して過ごせる様、又、早期退院が出来る様に支援している。週に1度、訪問で健康管理も行っている。</p>		<p>医療連携の看護師との連絡は24時間体制になっており、何か変化があれば相談・報告をし指示を頂いている。又緊急時にも対応が出来る体制になっている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院先の病院と管理者が連絡、情報交換を行うことで入院先の病院で安心して過ごせる様に、また、早期退院が出来る様に支援している。</p>		<p>入院先の病院と連携を取り、早期退院が出来るように、主治医との話し合いを行っている。主治医、看護師に退院後の相談も行っている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ご家族、主治医、看護師と担当者会議を開き、重度化、終末期に向けた対応、希望について話し合いを行っている。</p>	○	<p>全ての主治医と連携が取れているとは言えない為、連携を取り、安心して暮らせるように支援していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>担当者会議のなかで主治医を中心とし、医療、介護がチームとなり出来るだけ、重度化や終末期に向けた検討、準備を行っている。</p>	○	<p>医療面、介護面がお互いに連携を取りながら重度化や終末期を向かえた利用者様が最後まで、穏やかに暮らせる為の支援を行ってほしい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>必要に応じご家族、ご本人と情報交換、話し合いをし、住み替え時には、移りかえるにあたっての今後、起こりうる事を話し合いご本人、ご家族が安心して移りかわれるよう、日常生活の様子や必要事項をご本人・ご家族の了解のもと住み替え先の関係者に情報提供するよう努めている。</p>		<p>過去に在宅に戻られた際は、住む場所や居宅にケアマネージャーの紹介を行い在宅復帰への支援を行っている。又、別の場所に移る場合には移った先の職員、管理者へご本人の情報をフェイスシートに細かく記載し情報提供に努めている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛け、個人の情報が記載されている書類は鍵のかかる場所に保管している。入所の際に個人情報が必要時に使用させて頂く事を説明し、署名、捺印して頂いている。又、職員が知り得た情報は漏らさないように努めている。</p>	○	<p>利用者様一人ひとりによって声掛けを変え、プライバシーを損ねないような対応を心掛けている。職員間でお互いが注意し合える体制ができています。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>会話をする際は、利用者様の顔を見て話し、一人ひとりに合わせた説明をしている。利用者様がいたる場面でも選択出来るように常に工夫し、自己決定できる場面で支援している。</p>	○	<p>外出する際は、全員に希望を聞き、無理強いせず、希望された方は出かけて頂いたり、利用者様が選択できる場面を作っている。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に職員との都合で優先するのではなく、入居者様の希望や気分を聞きながら決めている。</p>	○	<p>その日の希望に添った支援を行なっている。時折、業務の都合を優先することが見られる為、今後は個別対応が出来るように支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回の訪問での理髪、希望された利用者様は近隣の美容室での理髪をされている。買い物等の希望時は一人ひとりに合った対応に努めている。季節に合った服装の声掛けやご本人が選んだ洋服が着られるよう支援している。</p>		<p>ご家族・ご本人に希望を聞き訪問理髪だけでなく、希望の美容室に3名行かれその都度職員が対応している。男性入居者様で髭を伸ばすことを希望されご本人の意見を尊重している。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの持てる力を活かし出来る事は無理のない範囲でして頂いている。食事の準備、後片付け、食器拭き等職員と一緒に楽しく出来るようにしている。又、希望された食材を取り入れる等、食事を楽しんで頂けるよう努めている。</p>		<p>室内だけでなく、時には外で食事を楽しんで頂いている。天気の良い時は焼肉、弁当を持ってピクニックに出掛ける等、気分転換を図り、共に楽しんでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	束縛しないでご本人の楽しみを奪う事無く安全に考慮し、お酒・たばこに関してはご家族・主治医の了解のもとで希望に添うように支援を行っている。おやつのお買物の際は利用者様と一緒に出かけ、何が食べたいか前もって希望をとり出来るだけ希望に添うように心がけている。		現在、お酒・たばこを嗜む方がおられる。喫煙場所を設けたばこ・ライターは職員が管理している。毎晩、晩酌をされつまみと共にお酒は何種類か用意している為希望のお酒を出している。その時飲みすぎにならない様注意している。おやつは可能な限り季節感のある物を出している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握するために、介護記録等を活用し、職員間で連携を図り、トイレ誘導を行っている。		排泄はその都度、介護記録に記入し、声掛けのタイミングの参考になっている。又、数日、排便が見られない時は、医療連携看護師に連絡し指示を頂いている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間にとらわれず、入浴が好きな方には毎日でも入って頂けるようにしている。嫌いな方は無理強いをしないよう努めている。清潔を保つ為、週2回は入浴して頂けるようにしている。		気分やタイミングに合わせた声掛けを行い、入浴を楽しめるようにしている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間は特に決まっておらず、無理に就寝して頂く事はしていない。習慣や状況に応じて対応している。職員は個々の時間を把握し個別に対応できるようにしている。		一人ひとりが好きな場所で休まれている。場所を強制せず、好きな所、その時の気分を尊重している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や持てる力を考慮しながら支援している。職員は利用者様の体調や気分を考慮し、その時々に応じ声掛けを行っている。作業後は労いの言葉を掛けている。		退屈にならないよう、それぞれの役割に変化を凝らし、作業を終えた時の達成感を職員と一緒に分かち合っている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身でお金の管理を出来る方は自己管理して頂き、購入品や使い道を、ご家族に報告している。自己管理が難しい方は、希望に添うように職員が購入のお手伝いしている。		買い物希望時には、利用者様と一緒に買い物に出掛けるようにしている。お金の出し入れは、ご本人が見える所で行い、確認して頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望された利用者様には、天気の良い日は、ドライブや近隣の散歩等を行っている。	○	季節に応じて、花火大会や夜景見学等、夜に外出する場合もあり、自宅が近くにある方は、行ける時に出掛けて頂いている。今後はもっと外出の機会を増やすように努めていく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と一緒に外出されたり、好きな方は競馬場や野球観戦等に外出されている。他施設の夏祭りやバザー等にも参加している。	○	場所によって、お金がかかる際はご家族の了解を得てから外出している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を使える方は自室に設置されている。受け取りや掛ける場合は、都度、職員がお手伝いしている。手紙を送る際は、ご本人に書いて頂けるよう、支援している。		ご家族から手紙が来た場合には、返信できるよう支援している。今後、定期的に面会に来られない、ご家族へ、写真等で元気な事を伝えられるような取り組みをしていく。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問でき、落ち着ける雰囲気作りを心掛けている。ご家族や知人が面会に来た時は自宅にてゆっくりと過ごされたり、時には、レクリエーションも行っている。		面会に来られた際は、邪魔をしないように心掛けている。利用者様の部屋で、一緒に食事をされたりする時もある。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会があり、防止の為の勉強会や事例検討会等を行っている。身体拘束が止むを得ない場合は、ご家族に説明と同意書を得てから実施するようになっている。現時点では必要がない為、行っていない。	○	身体拘束は無いが、今後も拘束が起こらないよう、職員の意識や取り組みを行っていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様自身が、鍵を掛けて過ごされる事はあるが、職員から掛ける事は無い。夜間は防災の為、玄関の鍵は閉めているが、ご家族、利用者様の理解と了解を得て行っている。		日中、玄関は出入り自由であり、誰もが気軽に行き来できる。エレベーターの乗り降りも自由であり、利用者様も日中等、自由に利用されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者様のプライバシーに配慮し、一人ひとりの見守り等を行い、様子の把握を行っている。外出や外泊時には場所を確実に把握をしている。		職員がユニット全体を見渡せるような位置で、それぞれ業務を行い、場所を離れる際は、職員間で声を掛け合っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や刃物等は、手の届かないような所や鍵の掛かる場所へ保管している。洗剤類は使用後に、直ぐに閉まっている。		自己管理が出来る方は、自室で管理し出来ない方はスタッフルームで預かり必要に応じて対応している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止対策委員会があり、各ユニットに代表としてリスクマネージャーが1名おり、ヒヤリ・ハット、インシデント発生時には中心となり、都度、話し合いを行い、対策を考え、実施している。		事故防止委員会が出来てからは、以前より大きな事故が減少している。以前より、職員の事故に対する意識や関心が高まっている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルがあり、直ぐに対応できるように勉強会等も行っている。	○	消防を交えて、緊急時の対応について、勉強会や各ユニットでマニュアルに添った勉強会を開催し、全職員が理解と技術を深め、対応が行えるにしてい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防と協力をし、避難訓練を行っている。夜間を想定したり、その時々に対応できるような内容を実施している。		全ての利用者様を災害から避難を行えるよう、今後、近隣の住人の協力が得られるような対策をとっていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時から、今後、起こりうるリスク等、話している。都度、面会時や担当者会議等で職員、主治医から生活、身体面でのリスクについて説明し、何かあれば情報を伝えている。住みよい環境作りに努めている。		ご家族の要望を聞き入れ対応している。インシデント等の発生時は速やかに連絡と説明を行っている。安心して生活できるように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日の生活の中で、一人ひとりの観察を行い、変化があった場合には各所に連絡を行い、情報を共有できるように努めている。</p>	<p>職員間の連絡を十分に行い、異常があった場合は、管理者、医療連携看護師への連絡を行っている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬については、十分に注意し、取り違え等が無いように確認を行い、用法、容量を守っている。体調に変化があった場合は医療連携看護師に連絡し、調整を行なっている。</p>	<p>症状に変化がある時は即座に医療連携看護師に連絡を行う体制が確保されている。看護師からの指示はインターネットを通し職員間で情報共有している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>牛乳やヨーグルトを召し上げて頂いており、適度な運動も行って頂くようにしている。毎日の排便の状態を記録し、排便が無い場合には、下剤等を使用している。</p>	<p>食物繊維を摂って頂ける様に、野菜や果物を召し上げて頂き、排便が無い場合には医療連携看護師に指示を頂いている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>声掛けを行い、義歯洗浄や歯磨きを行なって頂いている。出来ない方は職員がお手伝いし、行っている。</p>	<p>口腔内が不衛生になると様々な病気を引き起こす事を、職員間で話し合い、勉強会も開催している。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養のバランスが偏らないように、メニューを考え、好き嫌いがある方にも声掛けを行い、少しでも召し上げて頂く様にしている。定期的に水分補給を行い、食事や水分量を記録している。</p>	<p>○</p> <p>栄養の偏りが無いように、職員がバランスを管理している。水分量も個々に違い、制限がある方もいる為、職員が一人ひとりの状況を把握しながら勧めている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防マニュアルがあり、マニュアルに添って手袋の着用と手洗い、消毒を心掛けている。必要に応じて勉強会を開催し、医療連携看護師と協力して予防に努めている。</p>	<p>○</p> <p>感染症・症状別マニュアルを作成しており、手洗い、消毒を徹底し、職員間での知識向上に努め、講習会や勉強会に参加している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は常に新鮮なものを使い、手洗いや消毒を徹底している。全職員が、食中毒マニュアルを読み、食材や調理器具の管理を実践している。</p>	○	<p>食中毒マニュアルに添って、台所用品、調理器具の衛生管理を徹底し、食材は早めに使い切るように心掛けている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の入り口には、見やすい様にホームの名前が書かれており、玄関前には季節に合った花や装飾品を飾り、利用者様やご家族がくつろげるように、長椅子やテーブルを配置している。</p>		<p>当ホームは海に面し、塩害により限られた作物しか育たないが、玄関前には季節に合った花や装飾品が配置されており、くつろげる様に心掛けている。夜間は防犯対策の為、施錠している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールや廊下には、季節に合った花や四季が感じられる小物を飾り、生活観が感じられる様に家具を配置している。不快な音や光が出ないように心掛けている。</p>		<p>共有空間は居心地が良い作りを心掛け、不快な音や光が出ないようにしている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂や廊下に長椅子を配置し、花を飾り、季節を感じられる様にし、自由に過ごして頂く様に配慮している。窓際に長椅子を置く事により、外を見ながら、くつろいで頂ける様にしている。</p>		<p>海がすぐ側にあり、波の音や、カモメが飛ぶの見える。花火の鑑賞も出来、利用者様に楽しんで頂ける様、心掛けている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際、ご本人が使い慣れた家具を持参して頂ける様、説明し、自宅と同じ様に、くつろげる空間作りに配慮している。</p>		<p>自宅で使用していた物を持って来て頂く様、ご家族と話をしている。居室には仏壇、古くから使用されている茶たんす等を置かれている方もいる。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>清掃の際には、窓を開け換気を行い、入浴やトイレの際には、温度差が出ない様にしている。臭い等で淀みを作らない様に、常に換気を行っている。</p>		<p>全館、パネルヒーターと床暖により、温度調整を行っている。汚物等は臭いが漏れない様に、新聞紙やビニールに包み対応している。空気乾燥を防ぐ為、洗濯物を干したり、加湿器を使用している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>全体がバリアフリーになっており、ほぼ全てに手すりが設置され、利用者様の身体機能が損なわれない様に工夫がしてある。</p>	<p>廊下・トイレ・浴室など、ほぼ全体に手すりが付いており、手すりを使用し歩行出来る様になっている。車椅子用トイレもあり、安全に移動が出来ている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様の力を把握し出来ること、出来ないことを理解した上で声掛け、見守りを行っている。混乱や失敗した際は自尊心を傷つけない様に配慮し自立した暮らしが出来る様に心掛けている。</p>	<p>洗濯物たたみ、買い物、盛り付け、食器拭き等の作業を職員と一緒に会話を楽しみながら行って頂いている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダは無いが、天気の良い時は、近隣を散歩したり、駐車場で焼肉をしたりと、建物に合わせた活動を行っている。</p>	<p>○</p> <p>ベランダは無く、塩害で作物は育たないが、同法人グループホームには畑があり、そこで畑仕事等を楽しんで頂いている。又、天気の良い日には、当施設の駐車場で焼肉等を楽しんで頂いている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	一人ひとりの生活暦を考慮し、思いや願いをかなえる様、努めている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	利用者様が一人でご過ごす事が無いよう、職員と一緒にゆったり過ごせる様に努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	一人ひとりの生活のリズムに合わせのんびり暮らして頂ける様に努めている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	利用者様と職員が一緒に行なう事で責任感や達成感を共に感じ、生き生きした表情で過ごして頂ける様に努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	希望時対応している。又、職員からも声掛けを行なっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	医療連携看護師が週1回訪問され健康管理をされている。又、24時間、常に連絡が取れる体勢が整えている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	その時々々の状況や要望に応じ柔軟な対応に努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	ご家族が困っている事や不安を取り除ける様に話を聴ける場を設けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	友人、知人の訪問は見られるが、近隣住人の訪問は催し事のみ限定されている。

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	都合により参加できないご家族や関係者もおられる。少しずつではあるが、理解者や応援してくれる方が増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員はプライド、やりがいを持って業務を行なっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日々の生活が単調にならないように努めてはいるが、全ての利用者様が満足しているとは言いがたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族の意向や意見に対応できるように、話ができる機会を作っているが、全てのご家族が満足しているとは言いがたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは近隣の2つの町内会と深くお付き合いをさせて頂いている。それぞれの町会での催し物(餅つき・お祭り)等には、入居者様と一緒に参加し、地域との交流や連携に努めている。また、法人には当ホーム以外にも3つのグループホームがあり、誘い合わせて田植えやお祭り等などの行事や勉強会を行ない協力し合いながらサービス向上を図っている。今後は、他の法人の施設ともより一層の交流を図ることで研鑽し合いながら入居者様のサービス向上に繋がるよう職員の視野を広めていきたい。